
暁に消え逝く星

ラサ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

暁に消え逝く星

【Nコード】

N5198BA

【作者名】

ラサ

【あらすじ】

夜明けが初めて生まれた国と名高い皇国が滅んだ。渡り戦士のアウレシアと仲間達は、この生き残りの皇子一行の護衛を請け負うことになる。

天然の若き皇子の言動に調子を狂わされっぱなしのアウレシア達だったが、旅の途中で徐々に打ち解け合っていく。

だが、皇子の命を狙う追っ手が、彼らに迫っていた。

アウレシア達は婚約者のいる西の大国まで無事に皇子を送り届けられることができるのか。

生き残りの皇子の生い立ちと彼らを追う者達の悲しい過去。絡み
合った運命の行く末は…

暁の皇国

宵闇に紛れ

音もなく来たり

神々は 集い

高らかに 詠う

夜明けを求め

暫し やすまう

その地こそ

約束の 大地

ああ そは

あかつき
暁の おうごく
皇国

神々が最初にこの地に降り給うたその瞬間に夜明けが生まれたと、
古代史の冒頭は語る。

東の果ての、太陽が一番初めに昇る国。

暁の紫が世界で一番美しい国。

暗闇の世界に夜明けが初めて来たその地こそは、前面に水平線を
臨み、背面に険しい山脈を頂く 暁の皇国 と名高いラウ・フラウ
メア皇国である。

だが。

その日。

暁の皇国に夜明けは来なかった。

全てを焦がす紅蓮の炎と立ち上る黒煙が、たった一度だけ、その国から夜明けを消し去った。

西へ

とどろくように皇宮を焼き尽くす炎は、黒煙を従えて、その勢いは未だとどまることを知らないかのようにも思えた。そして、それは死人を冥府へと送る甲いの篝火のようにも見えた。

この世界では、火は邪悪を消し去る神聖なものとして扱われている。

象徴ともいえる皇宮が炎に包まれた時、民衆は口々に呟いたという。

火の神の怒りによって、邪悪は滅び去ると

そして、迫り来る業火を背に、女はじつと広場の中央を見据えていた。

門前にある血だまりの広場の中心には、たくさんの首のない骸が転がっていた。全てこの国の皇族とその姻戚にあつた者だ。

首はすでに皇宮の外で晒されていた。

皇帝、皇后の血に連なるものは全てが捕えられ、異例の略式裁判を経て、処刑されている。すでに死んでいた者も集められ、晒すために首を切られた。中にはこの業火に見舞われて判別のつかぬ無残な遺体さえある。民衆の怒りはそれほどに凄まじかった。

神々の末裔とも呼ばれる皇族はこの日滅んだのだ。

そして、皇国もともに、滅んだのである。

おびただしい死体と鮮血に敷き詰められた広場に立ち尽くす女は、小さく呟いた。

「足りないわ。これでは足りない」

皇宮に勤める女官の装束をした女は、美しい顔を静かな怒りに染めていた。

女の傍らに立つ、背の高い屈強な男が低い声で問う。

「では、どうする？」

砂漠の盜賊のように長い外套が風にあおられる。いまだ燃え上がる皇宮の熱風がもうここまで届いているのだ。

「俺はお前に従う。そういう約束だったからな」

馬の蹄の音がこちらに近づいてくる。一頭ではない。複数の蹄だ。「どうすればいい？ どうしたい？」

蹄の音にかき消される前に、女ははきすてるように言った。

「皇子の首を。それで最後よ」

「わかった」

大地を揺るがす大勢の蹄の音は、男の背後で止まった。

十数人の男達が馬から降り、男の指示を待っている。

やはり全員が砂漠に暮らす者のような格好だ。

長い外套に、革の手甲と脚絆、日除けとなる布を頭に巻き付けて背中に垂らし、ほとんどの者が髪の色を定かにはさせない。

「俺の馬を」

男の声に、すぐに乗り手のない馬の手綱を掴んだ男が前に出る。

「統領。どちらへ」

「準備をしろ。砂漠越えだ」

男は女を抱き上げ、馬に乗せると、自らもその上に跨がった。

他の男達もすぐにそれに従う。

来た時と同じように、皇宮の大理石の石畳を割るかのような勢いで馬は駆け去っていく。

そうして、馬は西へ向かった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5198ba/>

暁に消え逝く星

2012年1月15日01時05分発行